

# 中央大学出身の多摩市議

## 岩永ひさかさんの

## 2期目のいま、 そして……

99年法学部政治学科卒の27歳。

岩永ひさかさんは  
パワフルな女性である。  
OLから突如転身、市議となり、  
いままた次なる挑戦へ、  
夢ふくらませて始動する。

学生記者 西原香保里（経済学部3年）

1月10日、外は木枯らし。京王線

永山駅近く、多摩市の図書館や公民館などが入る「ベルブ永山」の一室では、会議が続いていた。

「まちづくりを統括するところが必要じゃない?」「多摩センターの駅の周辺って広すぎる。シャトルバスがあればいいのに」

市議の岩永さんを囲んで、6人。

「政策ゼミ@tama」の地域活性化班のメンバーたちである。なかに、中大生の田北亮さん（法学部2年）もいた。

### 岩永ひさか代理人

「政策ゼミ@tama」は、生活や地

域のことについて考え、活動してい

る主婦メインの政治団体「多摩生活者ネットワーク」が「次の時代を担っていく人たちに政治をもっと身近に感じてもらう!」と主に20代、30代の人を対象に呼びかけて生まれた。目下、メンバーは多摩市近辺の学生、研究員ら約20人。中央大学からも田

北さんのほか、山口涉さん（法学部

1年）、八木智弘さん（法学部1年）、多摩ネットのスタッフとして坂上暢幸さん（大学院文学研究科2年）が参加している（学年はそれぞれ当時）。

岩永さんは、ここでは「岩永ひさか代理人」と呼ばれている——すこし説明が必要だろう。

岩永さんは、「多摩ネット」をバツクに、02年の多摩市議会補選に初出馬、みごと当選。昨年4月の統一地方選で再選を果たして現在2期目。多摩ネットでは交代制で議員を輩

出するという、独特のシステムを敷いている。そのなかで、議員は「市民の声を集め、まとめた提案を届けるためのパイプ役＝代理人」という位置づけなのだ。

その下、「政策ゼミ」は3月市議会一般質問のテーマを「自治」と「地域活性化」に決め、この日は地域活性化班として「多摩センターの地域活性化」の具体的な提案を絞り込む段階だった。

そして、3月1日、政策ゼミのメンバーらが傍聴席から見守るなかで、

岩永議員の一般質問が行われた。

## 意外性の人―勢いで出馬

岩永さんは晴れ晴れとした笑顔が印象的。冒頭の会議でもはつきりした物言いで議論をもり立てていく。

——もともと政治家になるつもりだったんですか？

「全然。政治家やる人の気がしれないとまで思っていた」

そうおっしゃるのである。《意外性の人》——かもしれない。

OL生活にも多少マンネリ化を感じて、岩永さんは在学中のゼミの恩師である辻山幸宣教授が関わっていた「多摩市市民自治基本条例策定」のワークショップに参加した。そこ

で多摩ネットを知り、その活動に興味を持ったのだという。

「昔から地域で公共的な活動というものに興味があった」のは事実だが、でもネ、と言った。「ネットを政治団体とは思わず、女性の市民運動と思ったんだよねー」

折から多摩ネットは補欠選に出馬する人材を探していた。しかも議会を活性化できるような若い人を。

「もう勢いだったの！ 周りが先走ってだし、おもしろがられながら出馬した」という。なにか、突然の転機、はずみで出馬、みたいなスピード感である。

そうはいっても、いろいろな関門をくぐらなければならなかった。こ



「出馬は勢いだったの」と明るく語る岩永ひさかさん

の間の事情をみておこう。まず、退社のことから。会社の人事担当者は「君、そっちの方が向いてそうだから」と、すんなり辞めさせてくれたそう。人柄の明るさ、もここ

は奏功したにちがいない。02年3月31日に退職。

その日に、NPO法人「STATE SMAN」の審査を受けに行った。

「STATE SMAN」は学生自らの手で信頼できる政治家を発掘・審査し、日頃の活動から選挙活動や当選後まで支援するグループ。この結成者の一人、大城聡さんは辻山ゼミの先輩に当たる人だった。その朝

9時半から始まった審査は、履歴書や志望動機、政策に関する論文の質疑応答とカンヅメで続き、終わったのは夜8時半。投票の結果、9人中

6人が支持を表明し、規定の「3分の2以上の支持」をクリアして支援が決まった。

「政治と市民の架け橋になるというステイツマンの信条に共感してたし、自分のチームを同世代のステイツマンと作りたかった。でもぎりぎりだったのよー、得票率」

胸をなで下ろすように振り返って続ける。「私、実は自分の政策についていないから、論文を書くのは大変だった。いかに課題や政策を市民の中から汲みあげていくかが重要だと思ってるし、議員はそれに耳を傾

けてまとめいくのが仕事だと思ってる」

多摩市議会での一般質問では02年6月の市民自治基本条例策定を皮切りに、高齢者福祉、都市計画、補助金制度などをとりあげてきた。

記者は昨年12月の市議会を傍聴した。傍聴席から、「岩永さんの言うとおりの」とかけ声もかかる。そのくらい威勢がいいし、気迫がある。

行政側は答弁にたじたじとなる場面からは、「熱が入りすぎることもあるから、体調がよくなかったときの一般質問がよかったよ」なんて評も聞きました。

この間、地域活性化班は寒い中メンバーで多摩センターを見て回るころから始め、岩永さんが体調不良で進まない時期もあったが、「株式会社まちづくり三鷹」「多摩市くらしと文化部」などへのヒアリングや打ち合わせを続けてきた。メンバーたちによると、議論は会議室よりも飲み屋のほう盛り上がった、とも。

「政策ゼミに関わったことで知らなかったことを知ることができ喜びを味わい、今まで頭の中だけでしか考えていなかったことと現実をつなげて見ることが出来た。面白い！」とゼミ生の一人。

「いつもは多摩に住む主婦たちとの議論だったけど、今回は同世代だったし一緒にやってきたという感じがすごく強いし意見交換は刺激的だった」と、岩永さんも手応えを感じる共同作業だったようだ。

#### 議員は2期任期まで 4月から大学院通い

トップスピードで議員活動に邁進する岩永さんだが、やはり、

#### 《意外性の人》

である。じつは、今期かぎり議員を退くことを決めている。

「どんなに理想が高くても、議員を続けていくためには票を入れてもらわなくちゃいけないじゃない？」

そして結局議員は票を入れてくれる人のための政治活動を行っているのが現状。だから私は議員をずっと続

けるつもりはない」

と語るのである。そして、

「議員以外でも政治参加を持ってもらうことはできるし。今は自分がやっていることは何かを考えるためにもう一回勉強したい」と。

この4月から明治大学大学院ガバナンス研究科修士課程に進み、専門的な研究に向かう。

議員の任期は残り3年。この間、議員活動と院生研究を両立させつつ、また新たな目標へ。パワフルに、笑顔も忘れずに、一回り大きな挑戦が始まろうとしている。



熱心な「政策ゼミ」会議（中央が岩永さん）

**Hakumon**  
ちゅうおう

## 1~2年生 学生記者募集

ジャンルの  
あらゆる取材現場へ  
マスコミに通用する取材力、  
文章力を鍛えます

**募集人員** 若干名

**課題作文** 「私のとっておきの話」(800字)

**締め切り** 4月末日

**問い合わせ**

中央大学広報課  
「Hakumonちゅうおう」編集室  
● 0426-74-2146  
● rtaro@tamajs.chuo-u.ac.jp (編集専任:田中)